

水稻乾田直播と空知型輪 スマート農



智治さんが朝一番にレベル発光機をセッティング



表紙：きちんとめぐる季節。西谷内農場では菜種区画の向こうで均平作業。
緩傾斜を付けた水はけの良い圃場は精密農業の基本
目次：いつも二人で。晴れた日はとにかく農作業で忙しい。始業前の一瞬
裏表紙：昨年夏に蒔いた菜種は、5月ころに満開となり、夏にかけて収穫する。
連作を避けて、来年は水稻にする予定

作とともに 業 進行中

西谷内農場



燃料を満タンにして、今日の作業に出発



西谷内智治さんは2003年、Uターンして故郷の岩見沢市北村で就農し、翌年、農場を法人化しました。奥さんの里香さんと二人で、水稻、小豆、大豆、小麦、菜種、ビート、デントコーンなど、あわせて約55ha（東京ドーム11個がすっぽり入る）の農場を経営しています。

7 haの水田は全て乾田^{ちようはん}直播^{たねまき}（種^まを直接、畑に蒔く）にし、水稻を含む輪作（空知型輪作）を行っています。乾田にすることにより水稻も輪作に組み込み、また、品目を増やすことで繁忙期の作業を分散でき、気候の変化にも対応して経営の安定を図っています。お米はシンガポールやニューヨークなどに輸出しているそう。農業が天職という智治さんの農場で、季節の移り変わりとともにいつもの作業が出来るのは、あらためて貴重なことのように感じました。

里香さんがGPS自動操舵システムを搭載したトラクターを運転。昨年は大区画の田んぼだったが、今年は大豆作付け用に均平作業を行っている。牽引されたレベラー（白い部分）の上げ下げなどの動きが、セッティングされている